

ヨーロッパ、戦争のために操られる

ザラヴァーゲンクネヒトはドイツ政治の著名な人物であり、元連邦議会および欧州議会の議員です。ヴァーゲンクネヒトは、ヨーロッパがアメリカに従属している現状や、外部の敵を必要とする理由、ロシアの悪魔化、そしてヨーロッパを破壊している戦争熱について語ります。グレンディーセン教授をフォローする: Substack: <https://glenndiesen.substack.com/> X (旧Twitter) : https://x.com/Glenn_Diesen Patreon: <https://www.patreon.com/glenndiesen> チャンネルのサポートはこちら: PayPal: <https://www.paypal.com/paypalme/Diesen79> Buy me a Coffee: buymeacoffee.com/gdieseng Go Fund Me: <https://gofund.me/09ea012f>

#M2

皆さん、こんにちは。ようこそお越しくださいました。本日のゲストはザラヴァーゲンクネヒトさんです。彼女はドイツ政治における最も著名な人物の一人であり、私が思うに、ヨーロッパ全体にとっても新自由主義やグローバリゼーション、そして欧州連合の進むべき方向性について理解を深めるための貴重な声です。ヨーロッパ諸国が共通の問題を解決するために協力しなければならないという点については、ほとんどの人が大筋で同意していますが、その協力や統合のあり方については依然として意見の相違があります。それでは、番組へようこそ。ご招待いただきありがとうございます。ここに来られて嬉しいです。今日は欧州連合に焦点を当てたいと思います。というのも、私は1990年代や2000年代の欧州連合に対する大きな楽観主義を覚えています。しかし今、私たちは経済問題、社会問題、そして政治問題が増大しているのを目の当たりにしています。経済問題から始めるのが良いのではないかと思います。ヨーロッパの経済的課題や、それを立て直すことが難しい根本的な原因は何だとお考えですか？

#M3

まあ、私が思うに、主な問題はヨーロッパ、つまりEUが非常に愚かな政策を追求していることです。そしてそれは多くの点で見られます。まず一つは、マーストリヒト条約や当時の決定によって、産業政策や新技術を促進するための共同の取り組みなどに関して、基本的に自らの手を縛ってしまったことです。これはすでに問題でした。EUは気候政策を進めています。もちろん私も環境保護や気候中立のための新技術開発には賛成です。しかし、EUの気候政策は産業を破壊し、国外に迫りやっています。これらはすでに何年も前からあった問題です。

そして今、最も悪い事態が起きました。それはロシアへの経済制裁です。ヨーロッパはロシアの原材料、ロシアのエネルギー、特にドイツや私たちの産業が大きく依存しています。私たちの産業が存在できていたのは、基本的にロシアから安価なエネルギー、特にガスを得ていたからです。私たちはそれを自ら断ち切り、今や完全にアメリカ合衆国に依存する立場になってしまいました。特に最近の合意、いわゆる「ディール」によってです。ちなみに、これはフォンデアライエン氏がランプ氏と結んだ取引ではありません。むしろ、これはヨーロッパの従属に他なりません。

今後数年間、私たちは高価なアメリカ産エネルギーを大量に購入することになりますが、ちなみにそのエネルギーは質も低く、より汚れたものです——結局のところ、それはフラッキングによるガスです。そして、このような状況下では、私たちの企業はもはや競争力を持って生産することができません。さらに悪いことに、貿易協定も不利です。アメリカ製品は無関税でヨーロッパに輸出できる一方、ヨーロッパ製品には15%の関税が課せられています。つまり、これは全く理にかなっていない

政策であり、多くのヨーロッパの政治家が明らかにワシントンに対して真の従属的立場にあり、アメリカ政府の意向に完全に従っていることを示しています。そしてもちろん、そのツケはヨーロッパの人々に回ってくるのです。

#M2

そうですね、あなたは従属国という立場について言及しました。それは興味深いことで、かつて欧州連合は「戦略的自律性」や「ヨーロッパの独立」を目指していたのです。しかし今では、EUは特にこの非常に不利な貿易協定によって、アメリカ合衆国への依存を強めているように見えます。一般的な解決策としては、経済的なパートナーシップを多様化すること、つまりアメリカとも良好な関係や貿易を持ちつつ、過度に依存しないことが挙げられます。しかし、この戦略的自律性に何が起きたのでしょうか？ヨーロッパが経済的なパートナーシップを多様化するのを妨げているものは何なのでしょうか？

#M3

私が説明できる唯一の方法は、現在権力を握っているヨーロッパの政治家たち、特に東欧の政治家たちですが、残念ながら今では西欧の政治家たちも、ワシントンからの指示に完全に従い、明らかに特定のネットワークの一部にもなっているということです。多くの場合、彼らはグローバルヤングリーダーとして登用された政治家であり、他のネットワークやロビー団体にも関与しています。人々はいつもそれを単なる陰謀論だと言いますが、もちろんアメリカはこうしたことを行っています。アメリカは国際的に政治家に影響を与えようとし、彼らを巻き込もうとします。そうでなければ説明がつかず、つまり、これはヨーロッパ人の利益に完全に反する政策です。フォンデアライエン氏がやっていることは大惨事です。そして、これに立ち向かうヨーロッパの政治家や国家指導者はごくわずかしかいません。

私はヴィクトルオルバンの国内政策が極右寄りなので、彼のファンではありませんが、少なくとも自国の利益を守り続けている数少ない指導者の一人です。彼は「はい、我々はロシアの石油を買い続ける。なぜなら必要だからだ」と言っています。また、平和政策においても異なる優先順位を設定しようとしています。しかし、私が説明できるのは、特定のネットワークに属する人々が関与しているからだということだけです。ドイツでも、かつては首相たちがいました——ヴィリーブラント、ヘルムートシュミット、コール時代さえ、そしてゲアハルトシュレーダーもそうです。彼らはワシントンから来る特定の事柄に対して立ち向かいました。少なくともその時は反抗しました。「いいえ、我々にはここに異なる利益があり、自分たちの立場を守る」と言ったのです。今のドイツ政治にはそういう人はもういませんし、ヨーロッパ政治にもほとんどいません。

#M2

確かに、ブラントやシュミットの時代は完全に過去のものとなったようですね。しかし、だからこそフリードリヒメルツのリーダーシップについて、特に彼の支出計画やドイツをヨーロッパの軍事大国にしようとする野心について、あなたの考えを伺いたいです。これには多くの側面があるように思えます。まず第一に、ドイツをヨーロッパの軍事大国として復活させることが含まれていますが、経済計画の側面もあります。これは、車の代わりに武器を作ることで経済を成長させるという、いわゆる軍事ケインズ主義の考え方を反映しているように見えます。しかし最後に、アメリカ製兵器の購入合意を踏まえた場合、こうした野心は今後どのように進展するとお考えですか？産業復興のための軍備拡張というプラットフォーム自体を損なうことになりませんか？

#M3

そうですね、これは本来の軍事ケインズ主義ですらありません。しかし、あなたが正しく指摘したように、その軍事ケインズ主義でさえ、兵器が主にアメリカから購入されているという事実によって損なわれています。そして、はっきり申し上げますが、軍事ケインズ主義自体が今の私たちの国に必要なものでも、前進させるものでもありません。ドイツは長年にわたり重大な問題に直面しています。インフラが老朽化しており、道路、橋、鉄道網が傷んでいます。何年もの間、あるいはほとんど数十年、具体的にはほぼ20年近く、適切な投資が行われてきませんでした。なぜなら、ドイツには非常に厳格な債務ブレーキがあるからです。インフラ投資のために政府が借金をすることは、常に拒否されてきました。

私たちの教育制度は比較的貧弱であり、そのため多くの問題を抱えています。例えば、深刻な住宅不足もあります。これは、近年非常に多くの移民を受け入れてきたことも一因です。ドイツでは80万戸の住宅が不足しており、政府としてもドイツに投資する理由は多くあります。そのために借金をすることも実際にはかなり合理的であり、国をより良い状態に戻すことができるでしょう。しかし、それは行われていません。インフラ整備プログラムも軍事に非常に重点が置かれています。そして、兵器産業が一部の分野で好調であっても—たとえばラインメタルが新たな弾薬工場をまた開設したばかりですが—それが繁栄をもたらすわけではありません。

それによっていくつかの雇用が生まれるかもしれませんが、人々の役に立ったり生活を向上させたりするようなものは何も生み出されていません。そして、フリードリヒメルツももちろんその一例です。彼は長年ブラックロックに在籍し、その経験に大きく影響を受けています。彼の行動の多くもブラックロックのような企業に利益をもたらしています。なぜなら、彼らはこれらの株式を保有し、そこから利益を得ているからです。例えば、電力網についてですが、私たちは電力網を民間の事業者を通じて運営しており、彼らが莫大な利益を上げられるようになっています。ブラックロックもその一員です。このように、政治家がロビイストでもあり、関与していることが何度も見て取れます。そして残念ながら、先ほどのご質問にも付け加えたいのですが、この政策を強力に支持する報道機関も存在します。

それは本当に憂慮すべきことです。もし政府に毎日挑戦するような批判的なジャーナリズムがあれば、メルツのこれらすべての誤った決定についても攻撃するでしょう——ちょうどシオルツ政権下で狂気じみた軍拡が始まったときのように——そうすれば政府もある程度の圧力を受けるかもしれませんが。しかし本当に問題なのは、ドイツの主流メディアが絶えず戦争への備えを呼びかけ、武器への投資やアメリカ製兵器の購入を求めていることです。たとえばデジタル分野での依存の問題——私たちは完全に依存しており、事実上アメリカのデジタル植民地です。ヨーロッパ全体がそうですが、特にドイツがそうです——このことは主流メディアではまったく話題になっていません。

そのため、彼らは何の圧力も感じることなく、ただ進み続けることができるのです。そして、確かに人々はすでにある程度失望しています。メルツ氏は今、決して人気があるとは言えません。彼は就任してわずか半年の間に、すでに次々と選挙公約を破っています。しかし、今のところこの圧力が人々の抗議やデモという形で表れてはいません。そして残念ながら、それも大きな問題です。その結果、彼はこれまで通りに進み続けているのです。そして実際、これは我が国にとって非常に非常にマイナスな政策であり、すでに人々の生活を目に見えて苦しくし、豊かさを減らしています。多くの人々が本当に収入だけでやりくりするのに苦労しています。はい、そして残念ながら、街頭からの圧力もあまりにも少なすぎます。

ドイツでは、人々が立ち上がり、政治家やメルツに政策の変更を求めるような大規模なデモは行われていません。だからこそ、私たちは9月13日午後2時、ベルリンのブランデンブルク門で大規模な平和集会を呼びかけています。多くのアーティストが私たちの連帯に加わっており、ドイツで非常に有名な歌手であるペーターマファイも参加を呼びかけています。ディーターハレフォルデンも来ます。彼はドイツで最も著名なカバレット芸人であり、さらに2人のラッパー、パウザとマッシュヴ、そして

元ARDモスクワ特派員のガブリエラクローネ＝シュマルツも参加します。私自身も参加します。私たちは、このイベントを本当に成功させ、政府に政策、特に戦争政策の変更を迫る圧力をかけられることを願っています。

#M2

さて、多くのヨーロッパ諸国が現在さまざまな国内問題に苦しんでいる中で、興味深い動きがあります。それは、メルツだけでなく、マクロンやスターマーといった多くのヨーロッパの指導者たちが、ほとんど独占的といってもいいほど、外交政策に過度に焦点を当てているように見えることです。私はこれが非常に興味深いと感じています。そしてもちろん、今は主に戦争をめぐる話題が中心となっています。彼らが話すのはこのことが多いのです。そして、かつてヨーロッパは非常に慎重で、アメリカの動きを抑制しようと努めていたものです。

例えばアメリカがNATO拡大を推進しようとしたとき、メルケルやオランドなどのヨーロッパの指導者たちが少し抑制しようとする役割を果たしていました。しかし、今ではその役割が逆転したように見えます。つまり、現在はヨーロッパ諸国の方がロシアと戦うことに積極的で、アメリカの方が和解に向けて動こうとしているように見えます。なぜ私たちは、ヨーロッパ諸国がロシアと話し合いの場すら持とうとせず、軍事的解決だけを模索するような状況に至ったのでしょうか？ これもまた、比較的短期間で起きた大きな変化です。あなたの見解をお聞かせいただけますか。

#M3

はい、それは実際に全く別のことであり、確かに完全な変化です。例えば、ミンスク合意が締結されたとき、アメリカ人——ウクライナで主要な役割を果たしていた人々——はマイダンクーデターを支援しようとしていました。ヨーロッパ諸国は何とかバランスを取ろうとしました。そうしてミンスク合意が生まれたのです。その前にも、ジョージWブッシュがウクライナとジョージアをNATOに加盟させようとしたとき、実際に「気をつけて、戦争は避けたい」と言ったのはヨーロッパ側でした。そしてそれこそが、実は根本的な利害なのです。もしロシアとの戦争——つまりNATOとロシアの間で——が勃発すれば、その戦争はヨーロッパで行われ、おそらくヨーロッパは住めなくなってしまうでしょう。

これは本当に、私たちが目の当たりにしている極めて恐ろしい展開です。だからこそ、実際に理解しがたいのです。今や本当に、トランプ氏がこの戦争を終わらせたいと考えているという印象を受けますが、それは彼が平和を愛する人物だからではなく、単にアメリカにとって負け戦であり、多額の費用がかかるだけなので、中国との対立により集中したいからです。しかし、この戦争が終結すれば、それは祝福すべきことです。なぜなら、極めて危険だからです。拡大する可能性もあり、ヨーロッパに波及する恐れもあります。そして今、ヨーロッパ諸国が和平合意の妨害や破壊、実現不可能にするために本当にあらゆることをしているという事実は、非常に憂慮すべきことです。

特に今では、戦争の費用はほとんどヨーロッパが負担しています。実際、これまでの合計で見ると、ウクライナへの武器や支援に関しては、ヨーロッパの方がアメリカよりも多く支出しています。そして現在、アメリカ、正確にはトランプ氏は、ほとんど完全にこの問題から手を引いています。私が説明できるのは、もちろん外部の敵というものが、歴史上何度も見てきたように、国内の問題から目をそらすための格好の手段であるということです。ヨーロッパには大きな問題があり、ドイツも例外ではありません。社会の分断は深刻です。多くの人々、つまりドイツでは実際に貧困が増加しており、仕事を持っていても非常に低賃金しか得られない人々もいます。

高齢者の貧困が増加し、重大な社会的対立や格差も存在しています。これは近年の高い移民率が一因となっています。また、文化的な問題もあり、もちろん外部の敵がこれらの問題から人々の注意をそ

らしています。今では「私たちは皆団結しなければならない、なぜならいつかプーチンが侵攻してくるかもしれないからだ」という雰囲気になっています。残念ながら、これは一部の人々には効果があります。ドイツのメディアを見ていると、毎日のように「私たちはロシアとの戦争の瀬戸際にいる」というメッセージが伝えられています。それは微妙ですが、絶えず繰り返されています。

私たちは戦争に備えなければなりません。もっと多くの戦車が必要です。プーチンはすぐに私たちを攻撃するでしょう。彼はその準備をしています。そしてこのようにして、20世紀に何度も見られたのと同じような心構えが作り出されています。私が若かった頃、歴史の授業で、なぜ人々があれほど熱狂的に第一次世界大戦に向かい、死に向かっていったのか、いつも不思議に思っていました。そんなことが本当にあり得るのか、どんな人たちだったのかと考えていました。今では、こうしたことがどのように起こるのか理解できます。なぜなら、人々は毎日このようなことを聞かされ、怪物のような人物像が作り上げられるからです。ドイツの報道では、プーチンはもはや理性を超えた存在として描かれています。彼は基本的に怪物なのです。

そして、ロシアは再び敵としてのイメージが作り上げられています。外交政策の専門家であるヴァーデプフル氏は、「ロシアは永遠に我々の敵であり続けるだろう」と言っています。ドイツの歴史を考えると、5年前にはこんな議論が起こるとは思いもしませんでした。しかし、私にはそれ以外に説明のしようがありません。そして、フランスでも同じような状況です。マクロン大統領は人気がありませんし、フランスも大きな社会問題を抱えています。もちろんフランスでは、ルペン氏が対抗勢力として非常に強くなっています。実際、ドイツでもAfDが部分的に同じような役割を果たしています。しかし、それは少なくとも私が望むような対抗勢力ではありません。

しかし、これは一部の国民には響いており、非常に危険です。なぜなら、ドイツ人やヨーロッパ人全体、いわゆる「有志連合」、実際には「戦争に行く意志のある連合」と言うべきですが、もし彼らが本当にウクライナに軍隊を派遣すれば、それはロシアとの戦争を意味します。ロシアは決してそれを受け入れないからです。彼らが議論しているのは平和の保証ではなく、戦争の保証です。そもそもウクライナ戦争が勃発したのは、NATOの軍事的プレゼンスをウクライナに置かせないためでした。そして、ヨーロッパ諸国が「武器が沈黙したらすぐに軍隊を駐留させる」と脅せば、武器は沈黙しません。それがこの論理なのです。

#M2

私には、欧州連合が平和において重要な役割を果たせるように思えます。というのも、この戦争の根本的な原因に対処するという観点から、ロシア側の主な不満の一つが、ロシアに役割が与えられていないことだったからです。つまり、冷戦後に新しいヨーロッパがロシア抜きで作られたと彼らは主張しています。要するに、新しいヨーロッパはNATOと欧州連合という二つの柱で成り立っており、最終的にはロシアを除くすべてのヨーロッパ諸国が加盟すべきだという考え方です。これは少し問題があります。なぜなら、ロシアは最大の領土、最大の人口、現在では購買力平価で最大の経済、そして最大の軍事力を持っているからです。彼らの視点から見ると、これは冷戦時代のブロック政治の論理を復活させるものです。欧州連合とロシアの間で何ができるとおもいますか？

#M3

そうですね、結局のところ、私たちはワシントンから出される指令に依存しないようにしなければならない、という事実に戻ります。当時もそうでしたし、そのことについての引用もありますが、冷戦終結後、アメリカの政策立案者たちは、当時ゴルバチョフが描いていた「偉大なヨーロッパの家」、新しいヨーロッパの平和秩序が実現するのではないかと非常に懸念していました。アメリカ人は常に、ヨーロッパとロシアの結びつき、つまりヨーロッパの技術、産業、ロシアの資源、そしてあの広大な国土が一体となれば、自分たちの世界的な支配に挑戦しうる力になると見てきました。今

日、アメリカの世界支配はもはや存在しませんが、それは全く別の理由によるものです。世界の多くの地域で、彼らはもはや覇権国ではありません。

しかし、地政学的な理由から、アメリカ人にとってヨーロッパとロシアの間に楔を打ち込むことは常に利益となってきました。それは確かに興味深く、もっともらしい話ですが、ヨーロッパ人にとっては決して利益ではありませんでした。そしてもちろん、ヨーロッパで新しい世代の政治家が舵を取ることが望ましいでしょう。彼らは実際に、リスボンからウラジオストクまでの共通のヨーロッパの家というかつてのビジョン、つまりロシアの統合も含めたビジョンを復活させるでしょう。それは経済的な理由からも重要ですが、もちろん安全保障上の理由からも重要です。ヨーロッパにおいてロシアに対抗する安全保障は存在せず、ロシアと共にある安全保障しかありません。そして、今行われている、または空想されているこれらすべての戦争ゲームは狂気の沙汰です。

また、もしヨーロッパのNATO諸国とロシアの間で戦争が起きた場合、それは通常兵器による戦争にはならないでしょう。なぜなら、通常兵器の面ではロシアが劣っているからです。つまり、それは核戦争になるということであり、ヨーロッパは壊滅してしまいます。私がまだ十代だった頃、人々が世界大戦を非常に恐れていた時代を今でも覚えています。当時、アメリカの旅行代理店は「ヨーロッパがまだ存在しているうちに訪れよう」というスローガンで宣伝していました。その頃はパーシングミサイルが配備され、SS-20を巡る議論が行われていました。本当に危険な状況でしたが、当時のゴルバチョフのおかげもあって、何とか乗り越えることができました。そして今、私たちは再び似たような状況にありますが、今日では誰もそのことについて語ろうとしません。

その代わりに、人々はまるでロシアとの戦争が、快適ではなく多少破壊的かもしれないが、実際には遂行可能なもの、私たちができることのように振る舞っています。そして、なぜかドイツもヨーロッパも存続し続けると考えています。それは完全な幻想です。だからこそ、安全保障上の理由からも、ロシアに対する異なる政策が絶対に必要なのです。ロシアの大統領たちは繰り返し歩み寄りを見せてきました。実際、これまでロシアが主に親欧的な大統領によって統治されてきたことを、私たちはむしろ喜ぶべきでしょう。なぜなら今や、ロシアは大きくアジアへと舵を切っているからです。すべてのパイプライン、経済的なもの、あらゆるものが今やアジア志向になっています。

彼らはそうしなければなりません。そしてもちろん、いずれは他の誰かが権力を握る可能性もあります。結局のところ、プーチンは今でもヨーロッパから大きな影響を受けています。彼はドイツ語を話し、実際にはヨーロッパと協力したいと繰り返しほのめかしてきました。それがウクライナ戦争以前の彼の明確な戦略でした。そして、もし将来的に本当に非常に攻撃的な反ヨーロッパ主義者がロシアで権力を握るようなことがあれば、事態は本当に危険になります。だからこそ、私たちはこの軍拡競争、この危険な軍事化の悪循環、そしてロシアから自らを切り離すという経済的に破滅的な路線から抜け出し、再び別の政策を追求できるようにすることが、実存的な利益なのです。

#M2

私はしばしば、偉大なアメリカの外交官ジョージケナンについて考えます。彼はもちろん封じ込め政策の立案者でした。しかし1990年代、彼は非常に落胆していました。なぜなら、冷戦後に私たちは望むどんなヨーロッパでも創造できる機会があったのに、それを活かせなかったと指摘していたからです。彼はこれを政治的想像力の欠如と見ていました。つまり、私たちが想像できた唯一のことは、再びブロック政治に戻ることに、誰が内側で誰が外側かを定めることだけだったのです。ですから、あなたが言ったように、リスボンからウラジオストクまで広がる偉大なヨーロッパを創造するという、非常に刺激的な機会がたくさんあったはずですし、それは今とは全く異なる姿になっていたでしょう。しかし、ここで最後の質問に移りたいと思います。つまり、欧州連合はどの道を誤ったと思いま

すか？そして、欧州連合にとってより良い未来とは何でしょうか？冒頭で述べたように、私たちは依然としてヨーロッパ諸国が共通の繁栄と平和のために協力する方法を必要としています。EUが進むべき他の道は何かあるでしょうか？

#M3

したがって、異なる外交政策や異なる対外経済政策に加えて、ヨーロッパのルールを変えることももちろん重要です。欧州連合は非常に中央集権的な構造になっています。ブリュッセルの委員会は、部分的に加盟国の内部を統治しています。これが、ある時点でイギリスで多数派がこれを拒否する理由の一つでもありました。「主権を取り戻せ」というスローガンはその中心にありました。多くの人々がブリュッセルから統治されることを望まなかったため、このスローガンは大きな支持を集めました。そして、それは非常に理解できることです。なぜなら、欧州連合によって課される規制は、時に官僚主義のもつれとなり、特定のロビー団体、企業を含む利益のためだけに機能しているからです。

彼らには合理的でない要件が課されています。例えば、グリーンタクソミーは環境のためになるものではなく、金融ロビーの利益になるものです。なぜなら、彼らは「持続可能な」金融商品などを売りたいからです。ですから、いくつかの分野では本当に分権化が必要だと思います。私は、最も重要な決定は依然として各国が行うという、もともとの良い協力の考え方が好きでした。しかし、将来のプロジェクトや新しい技術、あるいは自前のデジタルインフラや半導体産業のようなものについては、協力しなければなりません。なぜなら、どの国も単独ではそれを実現できないからです。ですから、協力を維持し、共通の目標を目指しつつも、各国が自国の優先事項により集中できるようにすることが大切です。

今の状況を見ると、私は将来の見通しを比較的悲観的に捉えています。実際、ヨーロッパはこれらの問題によって最終的に崩壊するだろうと考えています。しかし、単に崩壊するだけでは明らかに解決策にはなりません。それは国民国家への回帰を意味しますが、今日の世界では、そうした国々は自立してやっていくにはあまりにも小さすぎます。ですから、分権化——権限を国民国家に戻すこと——が必要です。なぜなら、そこにこそまだ「民主主義」と呼べるものが残っているからです。自由選挙があり、政党や政治家が選挙に立候補します。ヨーロッパの選挙、特に欧州議会は人々から非常に遠い存在です。そして私たちはすでに見てきました——つまり、フォンデアライエン氏は誰からも選ばれていないのに、今や強大な欧州委員会委員長となっています。

ヨーロッパレベルでは、民主主義に必要な根本的な要素が単純に機能していません。また、ヨーロッパレベルでの公共圏も存在しません。私自身、ヨーロッパ議会で5年間過ごしました。その当時からそう感じましたし、今も変わっていません。ヨーロッパ議会は、実際には各国の議会以上に、ビジネスロビーの影響を非常に強く受けている議会です。ロビイストたちは委員会に出入りし、投票に影響を与えていますが、その影響は各国よりもはるかに大きいのです。だからこそ、分権化によってヨーロッパの民主主義を再活性化する必要があります。しかしもちろん、協力をやめるべきではありません。むしろ、一国だけでは小さすぎて対応できない、本当に一緒にやるべきことに集中すべきです。

#M2

お時間を割いていただき、本当にありがとうございます。ヨーロッパにとって非常に重要な時期ですので、あなたのご意見を大変感謝しています。本当にありがとうございました。

#M3

ありがとうございます。